

# 第五回 防災活動事例発表会

【日時】 平成27年3月8日(日曜日)

【時間】 午後1時30分～午後4時30分

【会場】 長岡リリックホール シアター

【主催】 中越市民防災安全士会  
(公社)中越防災安全推進機構  
長岡市危機管理防災本部

【共催】 長岡市社会福祉協議会

アンケートの協力をお願い

※ 配布の「防災活動事例発表会アンケート」は、お帰りの際に提出をお願いいたします。

# プログラム

## 1 開会挨拶

中越市民防災安全士会 会長 畔上 純一郎

## 2 発表

(1)「平成25年7月の土砂災害の記録」(30分)・・・P1～

長岡市森上区 自主防災会長 梅沢 清一 様

(2)「全員参加で進める防災活動」(30分)・・・P14～

長岡市下条町二 自主防災会長 江村 利夫 様

休憩(10分)

## 3 講演 「市民が主役の防災町づくり」(60分)

災害ボランティアコーディネーターなごや 代表

名古屋みなと災害ボランティアネットワーク 代表

特定非営利活動法人 レスキューストックヤード 理事

なごや災害ボランティア連絡会 常任幹事

港楽北部町内会 自主防災会 会長

高崎 賢一 様

## 4 全体講評

公益社団法人 中越防災安全推進機構 事務局長 山口 壽道

## 5 お知らせ(各10分)

長岡市、中越防災安全推進機構、中越市民防災安全士会

## 6 閉会挨拶

長岡市危機管理防災本部 危機管理防災担当課長 高野 徹也

お忘れ物のないよう、また、交通事故等に気を付けてお帰りください。  
本日はありがとうございました。

# 平成25年7月の 土砂災害の記録

平成27年3月8日

長岡市森上区

自主防災会会長

梅沢 清一

## 森上の紹介

## 地理



# 森上の歴史 (1)

百八灯で有名な南部神社の成り立ちは古く、源平合戦で活躍した熊野水軍の統領田辺湛増に関する伝承（1180年）や、新田義貞の挙兵（1333年）に関する逸話など、幾つかあり、前者が地域の起源を示すものとすれば、平安後期には開拓されていた事になる。

猫の石像があるため、南部神社は**猫又権現**として有名養蚕盛んなころ、御蚕様をネズミから守った所以とのこと。



適度な湿度と風が穏やかな土地であったことと、栃尾紬などの絹織物に支えられ、養蚕が盛んでした。

# 森上の歴史 (2)



史跡案内には、1333年の新田義貞の挙兵に呼応した森上在の新田一族の事、毎年行われる百八灯の祭りが新田義貞挙兵の日である5月8日に行われている事など、悠久の昔の伝説が紹介されている。

る言ひ狂えが残されています。宗良親王に付き従って信濃の国から来た武士たたらは、千野、高野、今井、磯部、梅次、保科姓であり、また新田支流として石原、中村姓があります。さらに古くから新田氏の地盤だった魚沼地方からやって来た武士団として和田や桜井氏などがあり、これらの姓は南部神社のある森上が属する栃尾の西谷地域に今も多数現存する姓なのです。

南部神社で毎年五月八日の夜に行われる「百八灯」は、同神社を信仰する家々が神社に通じる石段の両脇に一軒当たり百八本のロウソクを奉納する民俗行事で、真っ暗な間の中に二千本を越すロウソクの灯が揺れる美しさは筆舌に尽くせません。百八灯一が行われる五月八日は新田義貞が挙兵した日に当たり、足利尊氏軍に敗れて非常の死を遂げた新田義貞の万灯供養祭として、今も賑々と伝え残されているものと思われます。

栃尾の史跡巡りコース

## 森上・南部神社の伝説

元弘三年（一三三三）、後醍醐天皇が鎌倉幕府打倒の兵を挙げたとき、これに呼応して上野国（こうすけのくに・群馬県）で新田義貞が挙兵します。ところが、鎌倉幕府下では軽蔑に過ぎなかった義貞のもとにはわずか百五十騎の兵しか集まりませんでした。あせる義貞。

ところが、その日の夕方、越後の妻有郷（つまりこう・十日町市や中魚沼地方一帯）から越後に往く新田一族の兵一万余が義貞のもとに駆けつけます。狂喜した義貞は、越後勢の越前守の大井田隆隆が「実は昨夜、由良一統の山伏が一人、御大將の義挙を告げ、早く加勢すべしと触れ回って知ったのです」と告げました。この山伏こそ、ここ森上の南部神社の山伏であると言ひ伝えられて

# 現在の森上

- ・明治期には養蚕が盛ん  
70戸 250名
- ・昭和50年ころ 高度成長で人の流出  
40戸 150名くらい
- ・現在  
23戸 52名
- ・75歳以上単身世帯が5世帯

高齢化

# 森上の自然環境と災害

- ・頻発する土砂災害  
数年に一度、田、畑、畦、水路の破損
- ・最近の豪雨／雪害による被害が目立つ
  - ・今までは人命の心配に至らず。
  - ・稲作を継続する為に土木機械必要  
個人持ちで、土木、除雪、に

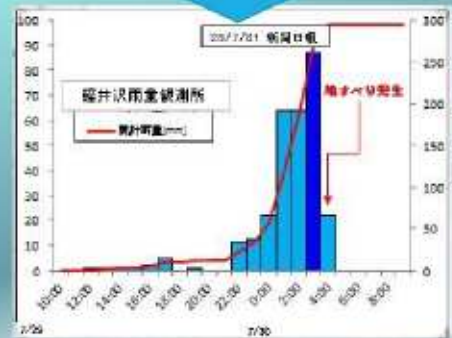
# 平成25年7月の豪雨

典型的なゲリラ豪雨 周辺は少雨

森上近隣の軽井沢観測所では、7月30日深夜に1時間87mmの猛烈な雨を観測。



24時間降雨は300mmに迫るすざましさであった。



## 雨の強さの目安は？

- 雨の降り方にも注意して、早めの避難準備・対策が肝要である。

1時間の雨量	雨の降り方
10~20ミリ	地面一面に水たまりができ、室内では雨の音で話がよく聞こえない。この程度の雨が長く続くときは、警戒が必要。
20~30ミリ	土砂降りになり、下水があふれる。小さな河川が氾濫して、崖崩れが始まる恐れがある。
30ミリ以上	バケツをひっくり返したようなあめになる。特に注意を要する地域では、避難の準備が必要。

図-3 1時間の雨量の降り方

1時間 87mmの雨はなかなか体験できない

# 土砂災害の記録 (1)

## 被災地全体像



# 土砂災害の記録 (2)

## 斜面上部で被災した家屋



土砂が家屋一階に入り込み、一階部分が崩壊。

一階で就寝中の老人が家屋部材に挟まれ動けない。

結果的には素早い救助で生命に別条は無かった。

# 土砂災害の記録 (3)

長岡市森上の土砂災害現場では、山肌を流れ落ちた土砂が押しつぶしていた。泥と一緒に無数の木が流れついた。

## 県道下の被災した家屋



7月30日の新聞記事から

「この中に人が?!」  
という惨状であった。

救出は難航したが、結果的には事なきを得た。



# 土砂災害の記録 (4)



機械による復旧

と



ボランティア





# 土砂災害の記録（5）

これらは更に2年前、平成23年同じく7月30日の土砂災害復旧スナップ。 数年に1度の頻度だ。



# 土砂災害の記録（6）

同じく平成23年の災害。生活道路の寸断箇所も増加傾向。



# 人命救助の経緯 (1)

平成25年7月30日

- ・ 前日から強い雨
- ・ 作業着で就寝 (区長)
- ・ 午前2時に土砂崩れ情報第1報
- ・ **午前4時40分**に轟音～  
外に出ると
  - ① 県道脇の一軒がつぶれ、
  - ② 山中腹の一軒も半壊

# 人命救助の経緯 (2)

80歳独居老人の救助

- ・ 5時10分には倒壊  
家屋から救出!

全壊住宅からの救助

- ・ 5時には男性を  
救出!

# 人命救助の経緯 (3)

## 全壊住宅からの救助 (2)

- ・ ミニコンボでの男性救出 5:00
  - ・ 消防隊員徒歩で到着 5:40
  - ・ 難航した女性の救出 6:30
- バックフォアで家の梁を支える



# 人命救助できた要因 (1)

## ① 即座に助けに集まる

連絡せずとも、まず駆けつける。  
スコップを持ち、現場に走る



現場で処置を考え、機械や器具の手配を

# 人命救助できた要因 (2)

## ② 救助のための機械が充実

- ・ミニユンボ (4台)
- ・中型ユンボ (2台)
- ・小型ブルドーザー (4台)



個人持ちせざるを得ない事情・・・

# 人命救助できた要因 (3)

## ③ 普段のつきあい

- ・どの部屋のどの辺に寝ているはず・・・
- ・あの家は日中誰と誰しかおらんはず・・・

春の百八灯祭り、お盆の焼き肉、毎月の老人の集まりなど普段の付き合いに加え、触合う機会が多い。

# 今回はうまく行ったが・・・

## 初めて体験した生命の危険

- ・巷言われている「ゲリラ豪雨」のすごまじさ
- ・進んでいる地盤の脆弱さ  
放棄地の増加  
大地震の後遺症

# 今回はうまく行ったが・・・

## 孤立する可能性の増加

- ・道路寸断による孤立
- ・救助、医療の遅延遅滞
- ・土砂災害＋豪雪／雪崩

今回はうまく行ったが・・・

進む高齢化、独居家庭の増加  
人口の減少・・・

- ・平成25年には27世帯68人
- ・平成27年の今は23世帯52人

いつまで助ける  
側に??



助けられる側に  
回った時には?

様々な問題あるが  
特に雪対策が喫緊の課題か？

除雪費用の公費負担 ▲~○

除雪人夫の手当 ▲ ⇒ ×

除雪の事故 ▲ ⇒ ×



# 最後に

**行政にお願いできるとしたら**

- 1)土砂災害Dメールの導入後押し**
- 2)除雪機動力向上支援**

**自主防災をやりぬく覚悟**

- 1) 緊急時は自力しか頼れない**
- 2) ハンディは多いがあきらめない**

# 本当の最後に

**課題の多い森上ですが、様々な所から激励を頂きました。**

森上区自主防災会が「防災功労者内閣総理大臣表彰」を受賞

- H25年8月 長岡市消防長 品田様から  
H26年6月 国土交通大臣 太田大臣から  
9月 内閣総理大臣 安倍晋三氏から  
12月 公益法人 社会貢献支援財団  
安倍昭恵様から

**ご清聴を感謝いたします**



# 全員参加で進める防災活動

平成27年3月8日

## 下条町（二）自主防災会

江村利夫  
本間三夫  
井出猛夫

## 下条町（二）の紹介



長岡市の南部で宮内駅から直線で2キロの所に公民館。

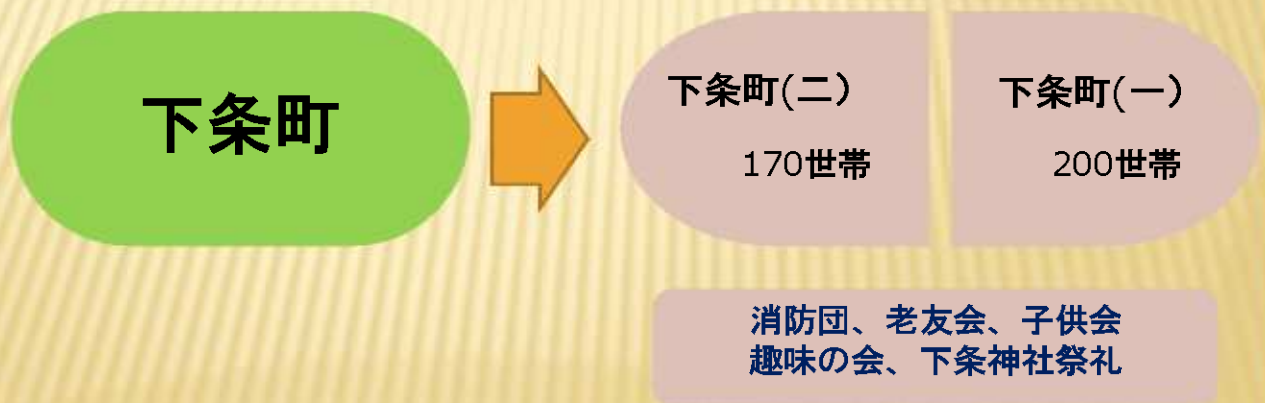
県道370号線は旧三国街道であり、その街道沿いに形成された町。

旧下条町（下条町一）は農業主体の農村であったが、下条町二の部分は比較的新しく形成された住宅地である。



# 町内会の発足

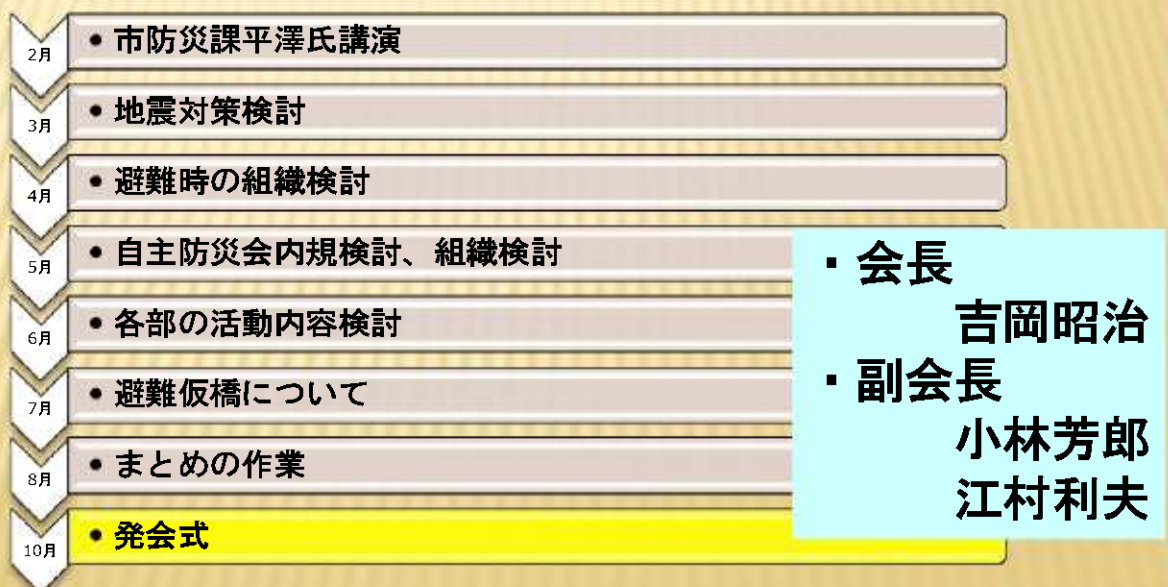
- × 平成11年に下条町が(一)(二)に分かれる。
- × 共同で執り行う事も多し。



美しい環境、安心安全の町内会をめざす

# 自主防災会の立上げ

- × 町内会発足を契機に自主防災会を検討
- × 平成13年に集中して検討を重ねる (8回)



# 中越大震災時の対応-1

◆平成16年10月23日 震度6強！

◆自主防災会役員として実施したこと

- ①緊急連絡会議開催
- ②住民の安全確認
- ③避難所確認と通知
- ④仮橋の設置



●評価

- ①混乱の中、避難指示できた
- ②防災訓練の効果を実感
- ③住民に安心と勇気を与えた

反省

- ①連絡体制甘く情報交錯
- ②情報の確認に混乱

# 中越大震災時の対応-2

◆住民の対応

- 怪我人を病院へ搬送
- 自宅風呂の解放提供
- 個人発電機提供  
(避難経路照明)
- 玄関先での共同炊事
- 安否確認



1次避難場所

- ・近くの空き地
- ・公園
- ・玄関先

# 中越大震災時の対応-教訓

- **感じたこと**

住民の方々の近隣への思いやりと行動力

- **反省すべき事**

情報収集、伝達でまだまだ改善余地あり

- **教訓としてどう生かすか？**

- 1) 自主防災活動を継続する、改善する
- 2) 大震災の体験を語り継ぐ
- 3) 住民の善意の心を持続して紡ぐ

## 下条町（二）の町内活動-1

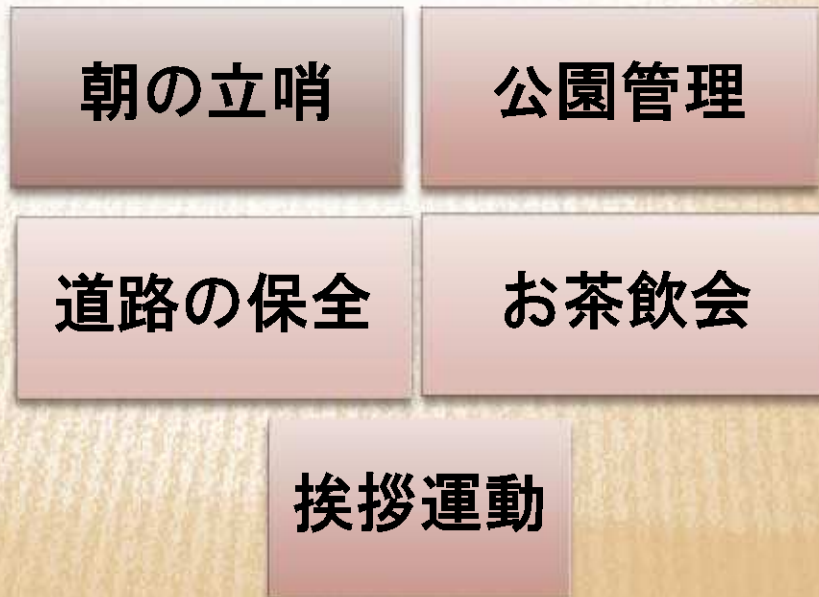
思いやりと協力の町づくり



# 下条町（二）の町内活動-2

## ● 善意に支えられての町内会

人々の尊き善意満ち満ちて  
町の行事の今日も進みて



寄りなされ、今朝も茶飲みに誘いけり  
友の善意に町内和む

# 自主防災会の組織と役員任期

## < 災害対策本部 >

本部長(町内会長)	1名
副本部長(副会長)	1名
総務(町内運営委員)	若干名
会計	1名

- 本部役員は町内会役員がそのまま担当。
- 本部役員任期は2年。再任は妨げず



- 防災役員(部長)と班長は1年交代

班長

全世帯、全住民

# 自主防災会の特色～4つのポイント

## ◆ 中越地震の教訓、体験を大切に

自助、共助の成功体験を次世代につなぐ

## ◆ 町内活動と防災活動は両輪

全員参加の町内行事で信頼と善意を確認する

## ◆ 春、秋2回の訓練の定着

マシ防止の為、住民の理解と役員の知恵出し

## ◆ 降雪期の訓練への取り組み

降雪期の震度6対応が活動の原点

# 震災を語り継ぐための仕組み

- ✦ 2ページにまとめた「下条町の中越地震」平成16年10月23日から11月8日まで事細かく記載され、後に続く住民に生の体験を伝える事ができる。

平成16年10月23日  
震 災 時 の 記 録

「大丈夫ですか」「怪我はありませんか」安全確認と声かけ、隣組みを気遣っての皆様方の全員の対応である。

怪我人を病院へ、自家用風呂の開放、危険箇所の標示  
玄関先きでの共同炊事、避難仮橋の設置、自家用発電での照明など全く皆様方の善意に支えられた中越地震であった。

加えて関係当局をはじめ、全国各地からの温かいご支援を忘れることはできない、ありがとうございました。

下条町(二)自主防災会

## 震災を語り継ぐための仕組み



月日	自主防災会対応	町内の状況	避難所	その他
10月 27日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・午前10時強余震有 役員班長見回りに</li> <li>・当面の対応を班長らに 書面で通達 (見回り、情報伝達)</li> <li>・午後5時に役員、班長 は東公園に集結し、 情報共有、協議</li> <li>・市からの情報を元に ごみ出し留意点を緊急 連絡。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・強余震多発の為 車庫や玄関前に 待機する人多。</li> <li>・一部の人体育館 に避難。車、 自宅退避多し。</li> <li>・ガス復旧せず 風呂不自由に。</li> <li>・車庫などでの 共同炊飯多し。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次第に避 難する人 増加。 300人</li> <li>・各地から のボランティア および 物資届き 始める。</li> <li>・暖房、 トイレOK</li> </ul>	<p>15班の 〇〇さん、 自宅風呂 を解放。 張り紙で 知らせる。</p>

## 自主防災会の楽屋裏

活動のマンネリ打破のために

①全世帯に防災関連アンケート実施  
住民の声を聴く

②出易い環境を作るための工夫をする  
トン汁は食器の用意まで町内が行う

スタッフの連携を深めるために

毎年3月に、班長、防災役員、町内役員  
による合同慰労会を開催、意見交換と親睦。

# 春の防災訓練紹介 1 毎年5月開催

## 1、まずは避難誘導訓練



## 2、上組小学校に集合、整列



班長を先頭に整列！！

# 春の防災訓練紹介 2

## 3、名簿チェックと開会式



## 4、二組に分かれ種々体験



# 春の防災訓練紹介 3



5、消防指導で消火と担架操作

6、閉会式



# 秋の防災訓練紹介 1

毎年10月実施



市防災課からの解説

- ①中越地震の記録  
（よみがえる山古志）
- ②東日本震災復興



安全士会からの指導

心肺蘇生と  
AED操作



## 秋の防災訓練紹介 2

学んだ事の確認  
質疑応答と意見交換



お楽しみの豚汁試食会

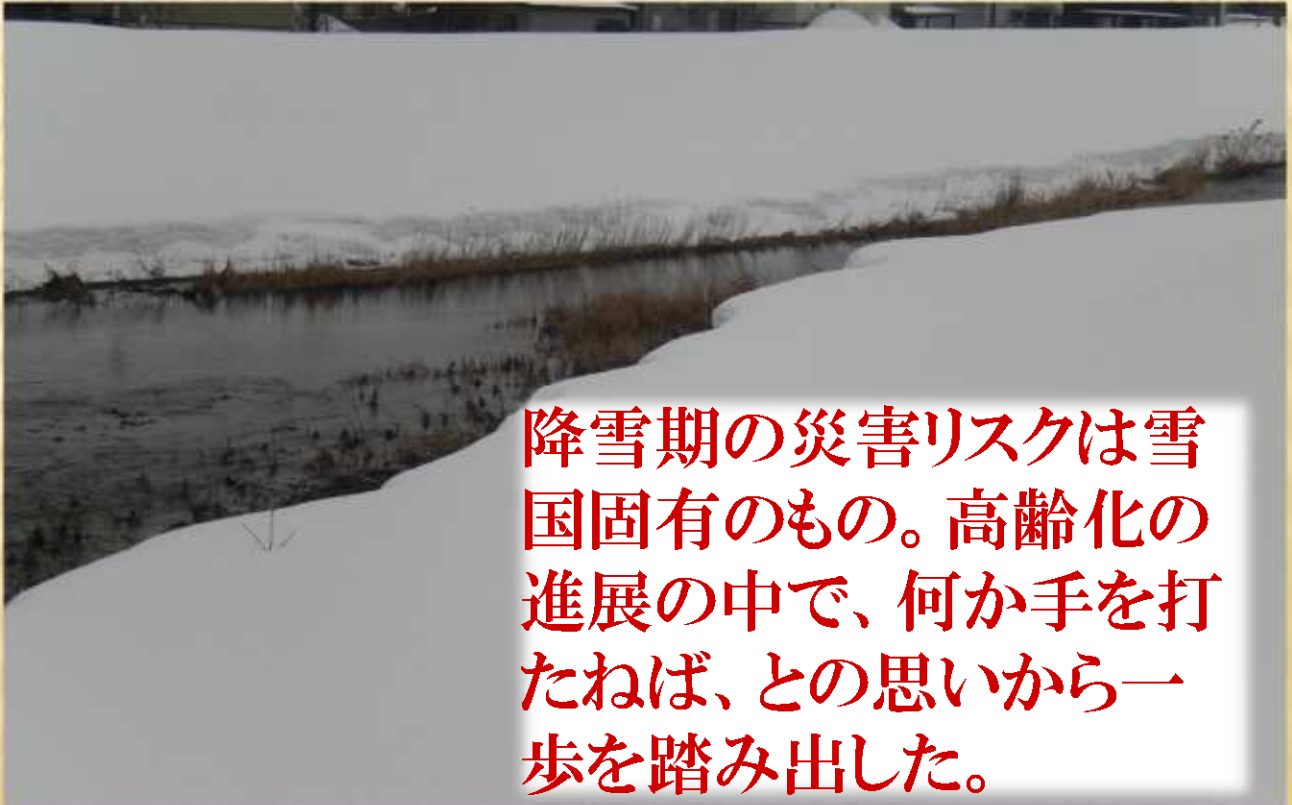


## コミュニケーションの根底に「親睦」！



下条町一と子供会、  
老人会は一緒になっ  
てBBQ大会や祭り  
を開催。  
親睦を深める。

# 降雪期の防災活動へのチャレンジ



## 取り組み開始の背景

### 1) 雪国固有の降雪期災害

- ・凍結、圧雪による転倒事故
- ・道路状況悪化による車事故
- ・雪降り作業時の事故

### 2) 忍び寄る高齢化(75歳～14%)

- ・雪降しが自力困難に
- ・独居老人世帯増加
- ・確実に進む高齢化(年に2%)

### 3) 降雪期対応型の防災活動なし



# 降雪期防災活動の方向付けとアンケート

- ◇合同防災会議を招集
  - ・ 防災役員、安全士、消防団員が集った。



- ◇アンケートで住民の意識を確認する事に。



<ul style="list-style-type: none"><li>●自分たちでできる事をする<ul style="list-style-type: none"><li>◇高齢者へ除雪協力申し出を。</li><li>◇市道に雪を出さない。</li></ul></li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>●自主防災会で取組んで<ul style="list-style-type: none"><li>◇高齢者宅の見守り声かけ</li><li>◇雪降し業者の紹介</li><li>◇有償除雪応援隊の結成を。</li></ul></li></ul>
<ul style="list-style-type: none"><li>●行政に依頼して<ul style="list-style-type: none"><li>◇太田橋の除雪を。</li></ul></li></ul>	その他

# アンケート結果の分析と実践

## A, 町内の皆様から配慮頂きたい事として周知した

- ① 高齢者の見守り、声掛け、手助けを。
- ② 極力道路に雪を出さない。

## B, 自主防災会として取組む事に

- ① 冬季巡視を開始（班長、防災委員、町内役員で）
- ② 雪降し業者紹介、市の除雪費用補助を回覧で周知
- ③ 世帯名簿の更新 H27年4月1日
- ④ 自主防災会の規程の見直し 4月以降
- ⑤ 有償ボランティア除雪隊の結成準備を継続する。

## C, その他

- ① 町内の消火栓の除雪確認（消防団）
- ② 太田橋の除雪を県、道路課に依頼し実施

# 町内巡視の結果

巡視日	平成27年1月25日
巡視戸数	167世帯
交通上の問題	一部雪の壁あるもOK
屋根雪の状況	30cm程度で問題なし
訪問時の対応	何れも快く対応頂いた
相談依頼事項	一人暮らしで買物大変
その他気付き	・町名、番地表示欲しい ・自主防災会活用PR必要 ・連携、絆を感じられる



## 今後の課題

- 1、高齡化への様々な備え
- 2、降雪期の防災・安全対策の推進
- 3、ボランティア除雪活動を実現させる
- 4、近隣町内との協力
- 5、避難所単位での防災訓練実施

## 全員参加の防災活動の基本

- 1、相互扶助など「善意の心」は誰もが有する潜在的能力であるとの信念を持つよう。
- 2、会長以下役員は平常時にこそ住民の意見を聞き、善意を尊重する生活をすべし。
- 3、地域のリーダーは使命感を持ち、誠心誠意人様に尽くす生き方をしたい。

結果、住民はリーダーの行動・言動に理解を示し、災害時に協力を惜しまない集団となる。

## ご清聴有難うございました

我が町内の防災活動、まちづくりは町内住民のご理解とご協力は言うに及ばず、長岡市関連部局の方々、消防署や安全士会の諸氏のご協力の上に成り立っているものです。厚く御礼申し上げます。

本日の発表に関し、ご意見ご質問あれば、後日でも構いませんのでお声掛け頂ければ対応します。

本日は有難うございました。

# 市民が主役の防災町づくり

- 自主防災会活動のポイント・事例紹介
- 名古屋市の災害ボランティア団体

災害ボランティアコーディネーター谷村 代表  
名古屋ボランティアネットワーク 代表  
特定非営利活動法人レスキューネットワークヤード 理事  
谷村 名古屋ボランティア連絡会 常任幹事  
池袋北部町内会 自主防災会 会長

高崎 賢一



本所製図家による新大塚火災被災地を描いた、当時の高崎一筆元  
神楽坂之巻額掛図



## 行政の地域に対する防災対策の変遷

関西学院大学総合政策学部・室崎益輝教授

1. 関東大震災の教訓から  
広域避難場所と避難路を整備し、火事から人々を守ることを重視
2. 阪神・淡路大震災の教訓から  
各自治体は耐震診断・補強などに注力
3. 東日本大震災の教訓から  
津波避難ビルのなどの指定等に注力

※次に発生する災害は津波ではなく、大規模な火災の可能性も十分ありうる。

## 津波・死傷 唯一ゼロの町 岩手県 洋野町

- 岩手県最北端の町。震度4。津波15m
- 住宅、インフラ、水産業を中心に甚大な被害
- 人的被害はゼロ
- 住民に高い意識。「震度3くらいの地震が起きると、この辺の人は皆、すぐに高台に逃げる習慣がある。」

## 防災を忘れないため、 対策を毎日の「習慣」にしよう

- ① 大混乱が起きれば、行政は助けに来てくれないこともある。地域コミュニティの助けが必要でも、それ自体が壊れてしまうこともある。そうなると、頼れるのは自分だけとなり、最悪のケースでも生き残れる力を持っていないければならぬ。
- ② 家の中で命を落とすケースは、家が壊れる、家具の下敷きになる、ストーブから火事が起こることが想定される。
- ③ 生き延びても、備蓄がしてなければ、様々な問題が生じる。
- ④ 「備えあれば憂いなし」自分が災害に遭遇したらどうなるのかを考え、必要な物を準備することが重要。
- ⑤ 夜中の地震を想定し、枕元に明日の衣服を用意して就寝など毎日の生活習慣とする。無理やり、いやいやでは防災は身につかない。ごく自然に防災の知恵を生活に組み入れていくことが大切。

- 家を津波で流されたAさん。震災発生時は家族と車で出かけるつもりだった。激しい揺れが収まるのを待ち、「家に戻っちゃいけない」とそのまま車で高台の避難所に向かった。
- 仮設住宅で暮らすBさん。漁港の会社から職場の同僚たちと高台の神社まで逃げた。
- Bさんは「年に2～3回は揺れを感じて避難することがある」「今回は特に尋常ではない揺れだった。家も職場も失ったが妻も娘もすぐに避難して無事だった」という

## 被災により起こり得る状況

- 建物の倒壊など被害
- 液化化現象による被害
- 火災による延焼
- 津波被害
- 公共交通機関の停止
- 道路の大渋滞
- 救急ニーズの大幅な増加
- ライフラインの停止
- 電話の不通
- 物流の停滞によるモノ不足
- 避難先での不自由な生活  
(避難先の確保も難しい)

## 地区防災計画とは

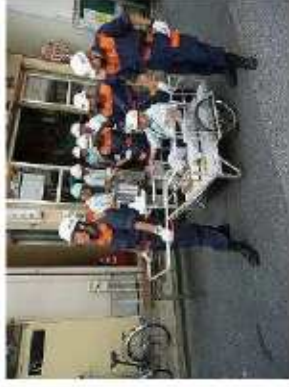
- 従来、防災計画としては国レベルの総合的・長期的な計画である防災基本計画と、地方レベルの都道府県及び市町村の地域防災計画を定め、防災活動を実施。
- 東日本大震災において、自助、共助及び公助が、かみあわれないと災害対策がうまく働かないことを認識。
- その教訓を踏まえ、H25年の災害対策基本法では、自助及び共助に関する規定が追加された。その際、市町村内の地区の居住者及び事業者が行う自発的な防災活動に関する「地区防災計画制度」が新たに創設されました(平成26年4月1日施行)。







安否確認シールの貼付



負傷者をリヤカカーで避難所へ搬送



原中学校生の参加による安否確認の実施



避難者カードの集計

## 6つの自治会が一つになり防犯・防災に取り組む (西大和6自治会連絡会：奈良県 上牧町)

1. 防犯から防災へ
2. 6自治会がまとまって活動するメリット
  - 活動を継続して実施できる体制
  - 自治会間の協力的体制の構築
  - 戦路・対策・経費面のメリット
3. 子どもたちに防災を伝える ～子どももサバイバルキャンプ～
4. 地域の連携を通して、さらに広がる助け合いの輪

## 今後の活動に関するアドバイス

1. 防災区民組織と区・警察・消防機関が連携した安否確認体制
2. 死傷者や建物被害が発見された場合の対応
3. 町会未加入者への対応について
4. 住民と行政の双方向の情報伝達体制の構築に向けて

## 地域ので進める防災まちづくり (松美町内会：新潟県 柏崎市)

1. 町内行事で培った地域コミュニティ
2. 中越沖地震発生時の対応

時間軸	初期対応
発災直後	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町内会部員が町内を一軒一軒回って安否確認、避難所へ避難誘導</li> <li>・高齢者、一人暮らし、障がい者へは、事前に準備していた災害時要援護者名簿を活用しながら、避難呼びかけ及び避難誘導支援</li> </ul>
被災2日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外部ボランティア受入れ・被災宅への案内</li> <li>・町内ボランティアの飲料・生活水及び食料支援物資の配給活動 (高齢者、一人暮らし、障がい者の支援)</li> <li>・外部からの支援物資受入れ及び配給</li> <li>・被災家庭（一人暮らしの高齢者等）の復旧に向けての動宣</li> </ul>
被災3日目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回緊急被害調査を実施。住民の安否確認、避難先、必要とする手助けなどを把握</li> <li>・夜警巡視活動（役員・青年部）</li> </ul>

# 千葉県浦安の液状化現象



# 救助用資機材(港楽北部町内会)

チェーンソー・ボール・のこぎり・ハンマー・スコップ・油圧ジャッキなど



1. 地域の本当の状況がわかる「緊急被害調査」
2. 被災経験を活かして、さらに「災害に強いまち」へ

- ① 震災の経験から
- ② 災害時にも頼りにできる地域コミュニティづくり



平成27年7月15日  
新井町内会 調査員 関根 隆

## 中越沖地震緊急被害調査(その1)

1. 大変な被害で手が届いていない、被災者、生活必需品は避難所のコンビニにありません。自備品も必要物資はコンビニで調達してきます。
2. 本町の必要物資はコンビニまで出し出してください。コンビニに回る事が多いので避難所はコンビニにお願い(24~7時4分7)
3. または、自宅(23-3504)へ
4. 緊急で手が届かない場合は状況を聞かせて下さい

## 中越沖地震緊急被害調査表

No	氏名	氏名(仮)	住所
1	被害の程度	該当は○印または影響に記入する	
2	避難先または現在の居住地	元居か	
3	計がまたは現在の状況		
4	身の危険状況を把握するか	希望しない	希望する
5	手回し必要物資があるか		
6	ごんごん内容ですか		
	主な被害状況		

# 千葉・浦安市でのマンション被災

昭和57年3月築 11棟 804戸

## 「入船東エステート」の防災委員会



## 地域防災会議（避難所マニュアルの検証）



自治会役員と  
ボランティア  
の全体会議

施設班

食料・物資班



## 災害時要援護者の避難時 避難所生活での困りごとチェック

不都合な点を民生委員が聞き取り調査



## 港楽学区防災訓練



全員が床に寝て、  
避難生活を実感して  
もらいました。



全員が  
非常持ち出し袋を  
持参

## 盲導犬は生きた白い杖です。



## 家具止め講習会



## 凝固剤入り便袋配布説明会 楽北町内会25.6.23



## ガラス飛散防止フィルムの講習



## 災害時要援護者への支援



支え合いマップの説明



町内住民への説明会

支援を必要とする方  
への戸別訪問

町内会長・民生委員・自主防  
災会の三者での訪問です。



## 住民の救出、救護

### ① 生き埋め者の救出

- 阪神・淡路大震災における救助活動
  - ・ 救助された人の77%は、近所の人による救助。
  - ・ サイレントタイムの重要性
  - ・ 救助用資機材の用意
  - ・ 作業チーム（リーダーは作業をせずに全体の状況を見る）

### ② 救急救命

- 人工呼吸やAEDによる救急救命

### ③ 重傷者の搬送

- リヤカーや毛布などによる応急担架。（畳・椅子）

### ④ 専門家への通報

- 危険度が高い現場では、一般市民の救助活動はできるだけ避ける。

## エコノミー症候群

2004年新潟中越地震の際、車中泊で避難生活をしていて11人が発症、4人が死亡

「建物の中より安心」と長く車の中で生活する人が増え、危険度が高まった

## クラッシュ症候群

震災で自宅が倒壊し、二時間以上足を挟まれ身動きできずにいた。見た目は打撲程度で、意識もはっきりしていたが、救出後5分で意識を失い、心不全で死亡

阪神淡路大震災では怪我で入院した2,718人のうち372人が発症し、50人死亡

## 名古屋における災害ボランティア団体の活動

## 名古屋市における 災害ボランティア団体組織化の経緯

- H14年市主催の災害ボランティアコーディネーター養成講座スタート(50名)
- 同年10月「ボラコなごや」発足
- H15年より市内各区で団体設立、21年12月で16区全ての区で団体は設立された。
- H17年「災害時における一般ボランティアの受け入れに関する協定書」の締結
- H18年7月「なごや災害ボランティア連絡会」の結成
- H21年4月「なごや防災ボランティアネットワーク結成

## なごや災害ボランティア連絡会の結成

- (目的)
- 災害ボランティア協定の円滑な運用の推進
- 平常時から「顔の見える」関係づくり
- 一人ひとりのくらしを守るための企画、提案  
(活動内容)
- ボランティア団体と名古屋市相互の情報交換と交流。
- 災害ボランティア活動の企画及び推進の調整  
ボラセンの運営、避難所や災害時要援護者支援などの諸課題の研究・提案を行う。

## 「災害時における一般ボランティアの受け入れに関する協定書」の締結(名古屋市・17年6月)



災害発生時に全国各地から集まるボランティアの人たちにスムーズに作業に、入ってもらうため、名古屋市は18日、市内の防災関連のNPO、ボランティア団体他と協力協定を結んだ。「災害ボランティアセンター」で、各団体、が被災者とボランティアの橋渡しをすることになる。

ボランティアコーディネーターは、被災者が支援を必要としている内容を把握し、ボランティアに仕事を割り振る役目をする人。市は全市にわたる災害が発生した時には、各区にボランティアの受け付け、整理を行うセンターを設置することにしており、協定を結んだ団体は、そこでの中心的な役割を担う。

34

## なごや災害ボランティア連絡会の 定例会に参加する団体

- 名古屋市(事務局)
- NPO法人レスキューズ
- 市民経済局市民生活推進センター・消防局防災・危機管理課・耐震化支援室・各区防災自主査
- ボラコなごや
- 16区の災害ボラ団体
- バイクボラ ビーボ
- 賛助団体
- 名古屋建設業協会
- 名古屋青年会議所
- アレルギーネットワーク
- 愛知医科大学看護学部
- 名古屋国際センター
- 名古屋市協
- 市民経済局市民生活推進センター

## 定例会（毎月第1木曜日開催）



## 三者協定の締結 連絡会・企業・行政



視印された協定書を前に握手を交わす関係者  
（左より、山田厚志名古屋建設業協会会長、  
因田義男名古屋ボランティア連絡会座長、  
高崎賢一なごや災害ボランティア連絡会座長、  
杉山茂樹名古屋市民経済局地域振興課長）

## 2007. 6月協定締結



## 平常時の活動

- ・ 市民の防災意識向上に向けた啓発活動
  - 防災訓練の企画・検証
  - 出前防災講座
    - ・ 防災講演会
    - ・ 地域の防災マップ作り
    - ・ 家具止め講習会とボランティアによる実施
  - 災害時要援護者の支援対策
  - 避難所運営訓練
  - 他地域の団体との連携

## さまざまな防災啓発活動



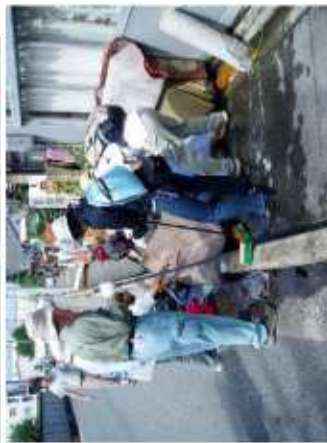
## 防災講演会



新潟県三条市災害ボランティアセンター



41



平成20年愛知県8月末豪雨水害被災者支援ボランティア活動



## 長岡市からのお知らせ

自主防災組織の活動の活発化と、災害対応力の向上を目的として、防災関係機関と連携し、自助・共助のための地域防災力の強化を支援します。

### ① 自主防災活動報償金の支給

自主防災会が防災活動を実施した場合、年度内1回に限り、活動報償金を支給します。

- ・ 世帯に応じて15,000円～37,500円を支給
- ・ 申請を受け付けた場合のみ支給（事前届け出および報告書が必要）

### ② 中越市民防災安全大学開催の支援

高い防災意識と防災知識を持った市民の増加を目的に開催する中越市民防災安全大学を支援しています。

- ・ 7月～11月に実施
- ・ 土曜日開講 全13回（26講座）
- ・ 自主防災会から安全大学を受講する方がいる場合は、受講者1名につき5,000円を活動報償金に加算

### ③ 自主防災活動アドバイザーの派遣

自主防災活動アドバイザーを派遣し、地域の課題や活動のレベルに合わせたアドバイスを行います。アドバイスや住民主体のワークショップを通して、災害が発生した際の対応や備えについて地域住民と共に考えながら実施します。  
実施例

- ・ 防災訓練実施に向けたワークショップ
- ・ 平日日中における水害対応ワークショップ
- ・ 中学生と地域の大人との協働ワークショップ など

### ④ 「防災よろず相談」の支援

長岡での防災リーダーである中越市民防災安全士会が無料で行っている「防災よろず相談」を支援しています。

### ⑤ 「自主防災なんでも相談会」の開催

地域の自主防災活動に関する困りごとや要望等の相談に、防災の専門家と市職員がお応えします。

- ・ 日時 3月28日（土）、29日（日） 午前9時から正午まで
- ・ 会場 ながおか市民防災センター 2階 研修室
- ・ 料金 無料
- ・ 事前申込制

(公社)中越防災安全推進機構の取組み  
中越市民防災安全大学  
防災アドバイザー派遣制度

(公社)中越防災安全推進機構  
地域防災力センター

## 中越市民防災安全大学とは

中越地震の経験・知見を共有・伝承し、地域防災リーダーを育成するためにH18年に開校された。

防災専門家、行政等の実務担当者、市民活動団体等の講師により、専門的な知識や災害時に役立つノウハウの指導が行われており、432人が卒業している。

また、安全大学を修了すると防災士の受験資格を得ることが出来る。

## 平成 26 年度 中越市民防災安全大学 カリキュラム (第1版)

趣旨	日程・会場	テーマ・講師	講座	内容
防災・災害の基礎知識・スキルを学ぶ	7. 5 (土) 13:30～17:00 ながおか市民防災センター2階	<b>入校式・オリエンテーション 長岡市の防災</b> 長岡市長 森民夫 長岡市危機管理担当本部長 本部長 〔公社〕中越防災安全推進機構	1,2	中越市民防災安全大学ガイダンス / 開校挨拶・講話 / 市の防災体制と災害対応 / 中越市民防災安全士 (卒業生) に期待する役割
	7. 12 (土) 13:30～17:00 ながおか市民防災センター2階	<b>水害対応</b> 〔株〕エコーシーエンス 樋口新 長岡市危機管理担当本部長 本部長 〔公社〕中越防災安全推進機構 河内龍	3,4	水害発生時のメカニズムと防災 / 長岡市の水害対応 / 災害ボランティアセンターへの仕組みと活動 / 震災対策
	7. 26 (土) 13:30～17:00 ながおか市民防災センター2階	<b>災害時の自助・共助</b> 防災ゲート・パートナーズ 北尾和典 防災ネットワークプラン 赤上浩一	5,6	災害から子どもたちを守るために / 災害時の自助・共助と平時からの備え
	8. 9 (土) 13:30～17:00 長岡市消防本部4階	<b>災害のリスクコミュニケーション</b> 早稲田大学防災研究所 奥守良也	7,8	被災社会形成 / 生活防災と地域防災 / 災害対応ゲーム「カスロード」の概要・演習
	8. 23 (土) 13:30～17:00 長岡市消防本部4階	<b>普通救命講習</b> 長岡市消防本部	9,10	心臓蘇生法 / AEDの使用法 / 異物除去及び止血法 (防災士試験受講者 必修講座)
	8. 30 (土) 13:30～17:00 ながおか市民防災センター2階	<b>我が国の防災最前線</b> 防災ジャーナリスト 吉村真貴 東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター 栗池祐季	11,12	大災害 (東日本大震災、震災後編など) から見る教訓と知見
中越大震災の経験・教訓を学ぶ	9. 13 (土) 13:30～17:00 長岡震災アーカイブセンター きおくみらい	<b>中越大震災① 概要をつかむ</b> 長岡造形大学名誉教授 平井邦彦 〔公社〕中越防災安全推進機構 岡野功	13,14	中越大震災 その何が起きたか 発生から復興まで / 復興 10 年のあゆみ / 長岡震災アーカイブセンターをめぐらぬ経験
	9. 20 (土) 10:00～17:00 長岡市消防本部前集合 中越メモリアル会館	<b>中越大震災② 現地を見る</b> 長岡市消防本部 (特活) 中越防災フロンティア	15,16	防災実践講座 (ロープワーク・消火訓練・土のう積み) / 中越メモリアル会館体験 (山笠道、小千谷)
	10. 4 (土) 13:30～17:00 長岡市消防本部4階	<b>中越大震災③ 被災者を知る</b> 〔特活〕長岡造形大学・障害者支援センター 長岡裕子 長岡市福祉総務課 / 長岡市危機管理担当本部長 本部長	17,18	長岡造形大学中越大震災での避難行動要援者支援 / 避難行動要援者に対する支援と災害時の対応 / 意見交換
災害時の行動・対応を学ぶ	10.11 (土) 13:30～17:00 長岡市消防本部4階	<b>民間団体による災害支援体制</b> 長岡市国際文化センター 岡原友実 長岡市社会福祉協議会 本陣由由 〔特活〕多世代交流館こころ 佐竹直子 〔特活〕防災安全キックフォーカス 芝井裕花	19,20	長岡市内で活動するさまざまな団体の活動と連携 / 中越地震での活動と平時からの取組み
	11. 1 (土) 13:30～17:00 ながおか市民防災センター2階	<b>避難所運営</b> 〔一社〕減災・復興支援機構 宮下加寿	21,22	ワークショップ演習「避難所開設・運営」
	11. 9 (土) 13:30～17:00 長岡市消防本部4階	<b>地域防災</b> 新潟県立大学 澤田穂高	23,24	地域防災力の向上と災害時の自助・共助・互助 / 自主防災組織による活動事例発表 / 意見交換
	11.22 (土) 13:30～17:00 ながおか市民防災センター2階	<b>卒業式・防災士試験 (申し込み希望者のみ)</b> 新潟県加寿 澤田穂高 〔特活〕日本防災士機構	25,26	特別講演 / 記念撮影 / 認定授与式 / 防災士試験 (申し込み希望者のみ)

※都合により、カリキュラムに変更が生じる場合があります。あらかじめご了承ください。



講義



ワークショップ



実習



視察

## 自主防災活動アドバイザー派遣とは

自主防災活動アドバイザーを派遣し、地域の課題や活動のレベルに合わせたアドバイスを行います。

ワークショップ(参加型の会議)を通して、住民の防災意識啓発や地域防災の課題の明確化、防災活動計画づくりなど **地域主体の防災活動**を支援します。

## 自主防災活動アドバイザー派遣 メニュー

1. 防災マップ作成ワークショップ
2. 平日日中の防災訓練
3. 地域防災力向上ワークショップ
4. 防災訓練へのアドバイス
5. クロスロード
6. 防災〇×クイズ
7. オーダーメイド型の依頼
8. その他

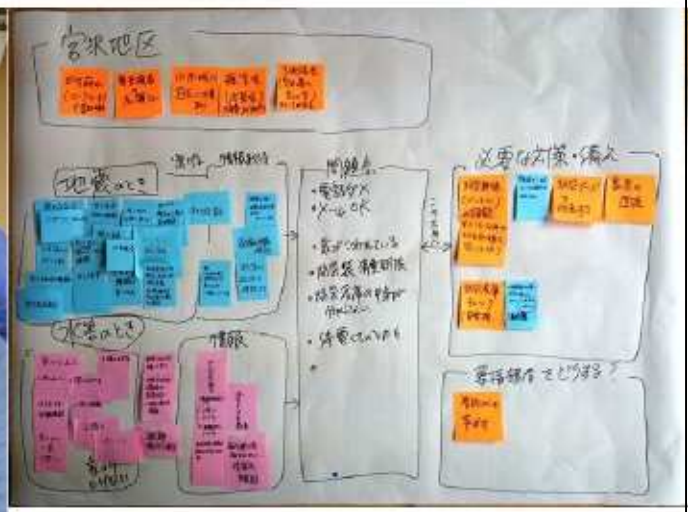
# 防災マップ作成ワークショップ

防災マップづくりを通して、地域の危険箇所の把握や避難場所、避難経路、避難のタイミングなどの確認を行います。



# 平日日中の防災訓練

平日日中に災害が発生した際に、どのような課題が発生し、その課題にどのように対応したらよいかを地域の皆さんと考えます。



# クロスロード

災害時に発生し得る二者択一の問題を考えてもらうことで、住民の防災意識の醸成と家庭や地域で取り組むべき課題を明らかにする。



## クロスロード4

あなたは地域の自治会の会長です。

避難所に避難したところ、行政職員から支援物資のお弁当を渡されましたが、数えると避難者の半分しかありませんでした。

行政職員に数が足りない旨伝えましたが、とりあえず今すぐ渡せるのはこれだけで、次は明日になってしまうかもしれないとの返答でした。

お弁当を配る→Yes

お弁当を配らない→No



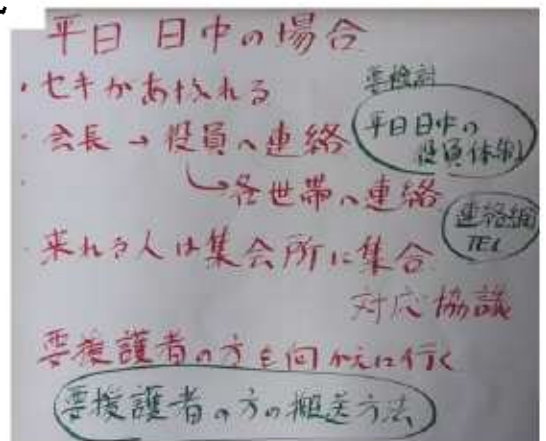
## 【事例】 和島地域 下富岡地区



平成25年度防災マップの作成



平成26年度  
避難計画づくり



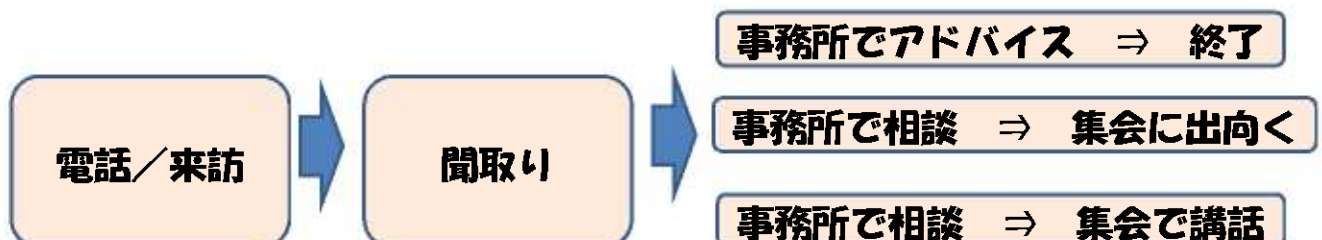
# 「防災活動よろず相談」実績

- 平成26年8月から相談来所始まり、  
現在まで15件の相談あり。(電話相談含む)
- うち4件は地区公民館などに出向いての  
相談やパワーポイントでの講話。また、  
事務所での事例紹介などは5件
- 自主防災会の不活発、マンネリの相談が多い

中越市民防災安全士会 <自主防災会支援部>

## 防災よろず相談の事例

時期	相談事項	対応	道具
9月	連合での避難訓練どうあるべき?	役員会に出向く	簡単な資料
9月	町内の防災意識を高めたい	住民に講話	パワーポイント
9月	洪水について学びたい	住民に講話	パワーポイント
11月	除雪隊を立上げたい	事務所で説明	事例資料
12月	自主防災会立上げにアドバイスを	事務所で説明	パワーポイント
12月	安否確認の名簿のありかたは?	事務所で説明	事例資料
2月	自主防災会の活性化	住民に講話	パワーポイント



# 防災よろず相談への対応パターン

- 事務所での相談
  - ・他町内取り組みの紹介
  - ・不活性への対応案提示
- 町内の防災会合に出向き講話
  - ・洪水について(昨今の洪水は・・・)
  - ・住民の防災意識を向上させるヒント
- 他町内防災訓練の収録ビデオ紹介
  - ・20分～30分に編集し、解説

ご利用ください / 事務所 77-3918

## 町内に出向いてのプレゼンテーション事例 ～ ＜活動のマンネリ打破＞

**避難訓練を計画する前に**

①なぜ防災訓練を?

- 町内行事だからおきてるが・・・
- やらないと町から防災金がでないしね
- 防災日どころやってくるみたいだ。テレビ、新聞、毎日でも
- 実際に雷雨や火の噴火と災害が多くなっている様だ

住民の感情、本音を理解する  
ところから話し始めよう。

②あまり盛りあがりたくない

- うちの町内はたいした災害は少ないよ。
- 心算もきかなくていい。(AGCは楽しい).....
- 忙しくておでらんないわ。

15

**我が町の防災の必要性の点検**

- ① 自助、共助への認識高まり
  - 阪神淡路の時の救助の大半は自助と共助(お隣さん)
  - 東北大震災の時は至石の「てんでんこが有名に
- ② 高齢化の進展、独居老人、要介護者の増加
  - 若人会で自主防災会運営の事例も
  - 要介護者、要加齢者への対応はどこも強いている
- ③ 環境の変化への対応 ～ むかしと違う
  - 気象庁発表も防災活動の一環
  - データ的に進んでいるが、避難、巨大台風

明らかに、「防災活動の活性化」が促されている、と読み取れる。昔とは違ってきている

16

**地域が必要な防災は何か? ⇒ ゴールを考える ⇒ 進め方のヒント**

**防災力がある、という事は?**

- ① リーダーがいる、組織(役割)ができています
  - 情報伝達網がしっかり
  - 継続的な防災訓練が行われる
- ② 助け合いながら早く、遠く避難できる
  - 避難する場所が決まっている
  - 要介護者の物理化、避難サポート役の物理化
- ③ 安全確認ができる
  - 防災計画などが住民コンセンサスのもとに完成している
  - 災害確認の方法が決まっている
- ④ 住民が自助の準備を怠りない
  - 家族でいざと言つ時の話し合っている
  - 家具転倒防止、消火器、避難経路、非常持ち出し

18

**例えばこんな具合に進めたら?**

- 住民主体で何をやるから決める
- 一方で、リーダーは住民を導くための書写表を作成

要介護者の物理化、避難サポート役の物理化

自助・共助の推進

安全確認

防災計画の策定、防災訓練の実施

防災力の向上

- 3～5年計画で少しずつ実施の進捗に合わせた進捗
- 人づくり(中核的防災リーダー)を育てながら段階的に
- 防災リーダーが毎年変わる体制が良い

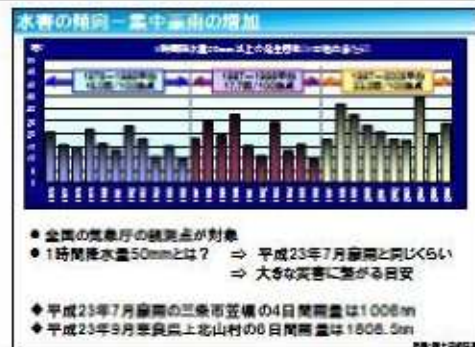
20



# 町内に出向いてのプレゼンテーション事例 ～ ＜洪水対応＞



**地域での洪水の歴史 ⇒ 気象の変化と洪水のリスク ⇒ 情報と備え**



<メモ>

A large rectangular area with horizontal dotted lines, intended for taking notes. The lines are evenly spaced and extend across the width of the page.